

平成26年度宮古群島病害虫発生予報第4号(7月予報)

I 7月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	50	30	30
平 年 並	30	40	40
低い(少ない)	20	30	30

(平成26年6月19日付沖縄气象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	28.7	31.6	26.6	130.8	246.7

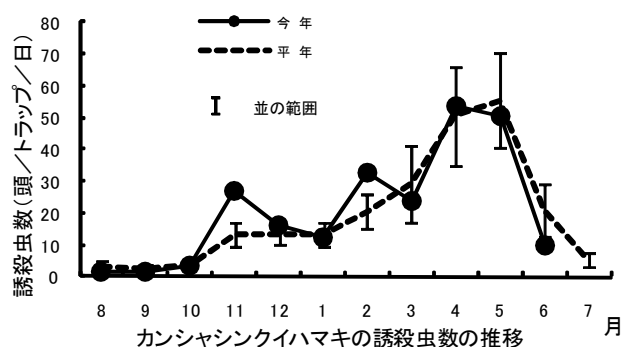
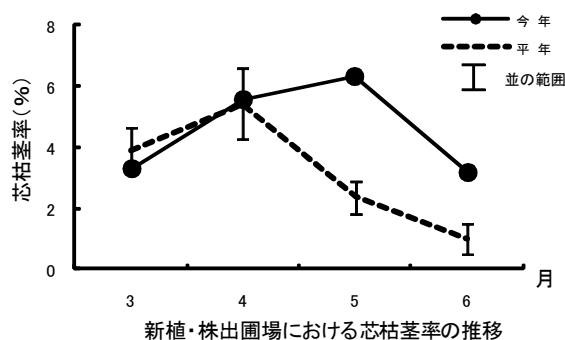
(沖縄气象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 7月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

○ カンシャシクイハマキの防除対策

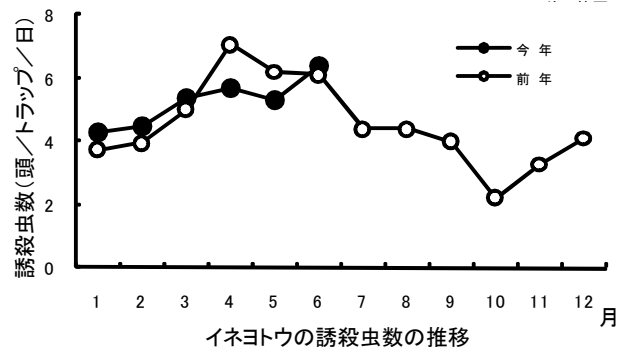
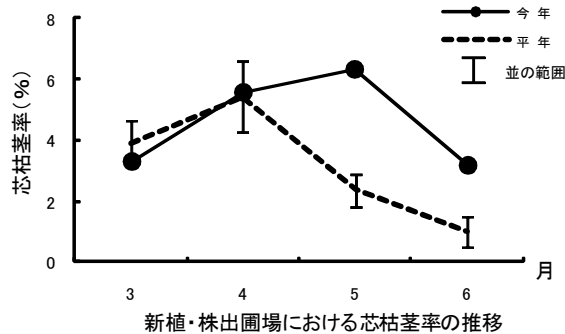
- a 6月中旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は3.2%(前年2.6%、平年1.4%)と平年より高かった。
- b 6月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は10頭(前年9頭、平年20.2頭)と平年よりやや少なかった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に葉液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成24年6月11日付)参照。

- イネヨトウの防除対策
 - a 6月中旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は3.2%(前年2.6%、平年1.4%)と平年より高かった。
 - b 6月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は6.4頭(前年6.1頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成24年6月11日付)参照。

- バッタ・イナゴ類の防除対策
 - a 6月上旬の調査の結果、一部地域でタイワンツチイナゴ幼虫による食害が観察された。
 - b 発生源となる圃場及び周辺の除草を徹底する。
 - c 平成26年度病害虫発生予察技術情報第1号(平成26年5月30日付)参照。

2 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
 - a 6月中旬の調査の結果、発病枝率は19.6%であった。
 - b 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - c 平成26年度病害虫発生予報第1号(平成26年3月24日付)コラム参照。
- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 6月中旬の調査の結果、葉あたり虫数は0.1頭(前年0.6頭、平年2.0頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 不用な新葉は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
 - c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ハダニ類の防除対策
 - a 6月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は2.1頭(前年0頭、平年0.6頭)と平年より多かった。
 - b 発生の多くなる収穫終了後に薬剤散布を行う。

3 オクラ

- うどんこ病の防除対策
 - a 6月中旬の調査の結果、発病葉率は8.4%(前年0%)であった。
 - b 老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。